

第5学年 特別の教科道徳学習指導案

2組 34名
指導者 中鶴 かすみ

1 主題名 正義の実現 C-13「公平、公正、社会正義」

誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公平、公正な態度で接し、正義の実現に努めること。

2 教材名 「名前のない手紙」(小学校道徳「生きる力」5年 日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) 主題について

本主題は、第5学年及び第6学年の指導内容C-13「公平、公正、社会正義」を受けて設定し、「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公平、公正な態度で接し、正義の実現に努めること」をねらいとしている。公平、公正、社会正義とは、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。社会正義を実現するためには、その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め、思いやりの心を育むようにすることが基本になければならない。しかし、このような社会正義の実現を妨げるものに人々の差別や偏見がある。人間は、自分と異なる考え方や感じ方などに対し、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をする弱さをもっていると言われる。そのような人間の弱さを乗り越えて、自らが正義を愛する心を育むようにすることが、一人一人が確かな自己実現を図ることができる社会の実現に不可欠である。その上で、自他の不正を許さない断固とした姿勢をもち、集団や社会の一員として力を合わせて差別や偏見をなくそうと努力することが重要である。

この時期の児童は、差別や偏見がいじめなどの問題につながることを理解できるようになる。一方、いじめなどの場面に出会ったときにとすると傍観的な立場に立ち、問題から目を背けることも少なくない。

そこで、本主題の学習を通して、日頃から自分自身の考えをしっかりと持ち、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意思を強くもったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てたい。

このような学習で身に付けた力は、中学校での「正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会に実現に努めること」に発展していく。

(2) 公平、公正、社会正義に関する学年段階ごとの内容項目とその傾向

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校
内容項目	自分の好き嫌いにとらわれないうで、接すること。	誰に対しても分け隔てをせず、公平、公正な態度で接すること。	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公平、公正な態度で接し、正義の実現に努めること。	正義と公平さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会に実現に努めること。
指導にあたって	日常の指導において、公平、公正な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせる。	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来し、いじめなどにつながることを理解させる。	日頃から自分自身の考えをしっかりと持ち、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意思を強くもったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てる。	「見て見ぬふりをする」や「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように指導をする。

(3) 児童の実態

調査日：令和4年7月14日 調査人数：34名

ア 道徳科の授業に関すること【表1】

1 道徳の授業は好きですか。	はい 32名	いいえ 2名
(「はい」の理由)	(「いいえ」の理由)	
・ 自分のことを見直せるから(6名)	・ 意見を言うのが苦手だから(2名)	

・ 友達の考えを知ることができるから(8名) ・ 自分の考えをみんなに伝えることができるから(6名) ・ 話を読むのが好きだから(3名) ・ 友達と一緒に考えるのが楽しいから(7名) ・ 自分や人のためになるから(2名)
2 道徳の授業で困っていることはありますか。 ・ 自分の考えをまとめるのに時間がかかる。

イ 本主題「公平、公正、社会正義」に関すること【表2】

1 もし友達が冷やかされたり、からかわれたりしていたら、あなたはどうしますか。 ・ 助ける(21名) ・ 注意する(7名) ・ 先生か家の人に言う(3名) ・ 何もしない(3名)
(1) なぜそのようにするのですか。 【「助ける」「注意する」と答えた児童】 ・ 自分がされたら嫌だから(14名) ・ 助けるのが当たり前だから(7名) ・ 解決したいから(4名) ・ 助けてもらったことがあるから(1名) 【「先生か家の人に言う」「何もしない」と答えた児童】 ・ 仕返しをされるかもしれないから(5名) ・ 先生に言った方が解決が早いから(1名)
2 もし友達が無視されたり、仲間外れにされたりしていたら、あなたはどうしますか。 ・ 声をかける(19名) ・ 先生に言う(10名) ・ 何もしない(3名) ・ 一緒にいてあげる(2名)
(1) なぜそのようにするのですか。 【「声をかける」「一緒にいてあげる」と答えた児童】 ・ 自分がされたら嫌だから(15名) ・ 悲しい気持ちになってほしくないから(6名) 【「先生に言う」「何もしない」と答えた児童】 ・ 自分が無視されるかもしれないから(11名) ・ 悪口を言われるかもしれないから(2名)
3 正義の実現とはどうすることだと思いますか。 ・ いじめをしないこと(10名) ・ 差別を無くすこと(6名) ・ 優しくすること(5名) ・ けんかをしないこと(7名) ・ 楽しく過ごせるようにすること(1名) ・ 無回答(5名)
(1) 正義の実現のためには、どんなことが大切だと思いますか。 ・ 相手の気持ちを考えること(19名) ・ 自分の考えを押し付けない(2名) ・ 友達のよいところを言ったり、うれしいと思うことをしたりする(2名) ・ 見て見ぬふりをしない(3名) ・ ひいきをしない(3名) ・ 無回答(5名)

【考察】

【表1】の結果より、本学級の児童の半数以上が、道徳の学習に意欲的であることが分かる。これまでの学習から、自分の意見を友達に伝えたり、友達の考えを知ったりすることに楽しさを感じてきているためと考えられる。その一方で、苦手を感じている児童も数人いることが分かる。これまでの経験から、自分の意見をうまくまとめることや、考えを友達に伝えることができなかったことから、道徳の学習を楽しくないと感じている。道徳の学習が好きだと答えた児童の理由から、「友達の考えを知ることができる」「友達と一緒に考えるのが楽しい」と相手を意識している児童もあり、そこから多面的・多角的な考えを得られることに意義を見出している。そこで、グループ内の意見を認め合い、多様な意見で聞けるようなグループ交流の工夫をしたい。そして、多様な意見を出したり聞いたりすることで、多面的・多角的な見方に触れ、考えを深めることができるというグループ交流の良さに気付かせたい。

【表2】の1, 2の結果より、友達が冷やかされたり、無視をされたりしているときに、本学級の児童の半数以上が「助ける」「声をかける」行動をとることが分かる。そのような行動をとる理由として、「自分がされたら嫌だから」と答えた児童が半数以上の中、「助けてもらったことがあるから」とこれまでの経験から行動を起こす児童もいる。一方で、「何もしない」と答えた児童が数人いる。理由として、「仕返しをされる

かもしれないから」「悪口を言われるかもしれないから」と周囲の雰囲気や人間関係に流されて何もすることができないことがあることが分かる。アンケートの結果には表れていないが、そのような経験をしたことがある児童は、少なからずいると考えられる。3の結果から、主題名に対する児童の考えが分かる。「いじめを無くすこと」と答えている児童が10名おり、いじめをよくないことであり、許されない行為であると理解している。「差別を無くすこと」と答えている児童もいることから、他人に対して差別することも、いじめと同様に許されない行為であることを認識していることが分かる。3-(1)の結果から、正義の実現のために必要な事として、半数以上の児童が「相手のことを考えること」と回答しており、正義の実現のためには、自分本位な考えだけではなく、相手のために行動することの大切さにも気付いている。

そこで、本学習を通して、友達が仲間外れにあっていいる場面において、その時自分はどうするかを考えさせ、友達を助けるべきであることは分かっているが、助けることによって自分が被害にあってしまうのではないかと考えることもあるという、心の弱さに気付かせたい。また、グループ交流で、多様な考えに気付かせることで、いじめや差別を無くすためには、周囲の雰囲気や人間関係に流されず、自分の考える正義をもとに行動することが大切であることを、考えることができるようにしたい。

(4) 教材について

本教材は、1番なかよしの光子をはじめとして、クラス的女子が「わたし」と口を利いてくれなくなってしまう。人気者の光子が女子全員に「わたし」と仲良くしてはいけないという指示を出したことを知る。その後、「わたし」は名前のない手紙をもらい元気づけられる。そして、転校してしまう吉野さんがみんなの前で「わたしに」に対して無視をしてしまったことについて謝る。すると、教室のあちこちから、「わたし」に対して謝る声が挙がり、「わたし」の仲間外れがなくなる話である。本学級の実態に合わせ、この話の場面に居合わせた場合どのような行動をとるのかを考えることができるようにし、その行動は正義と言えるのかについて考えることで、自分自身の正義感について振り返ることができるようにしたい。

【教材分析】	〈教材〉	〈予想される児童の反応〉	〈道徳的価値との関連〉
① 光子の指示で「わたし」を無視して、仲間外れにする。		- 一緒に無視をしてしまうかもしれない。 - 良くないよと注意をすべきだ。	B 友情, 信頼 C 公平, 公正, 社会正義
② 誰かが名前のない手紙を「わたし」の筆箱の中に入れる。		- わたしも同じようなことをするかも。 - なぜ名前を書かなかったのだろう。	A 善悪の判断, 自立, 自由と責任 C 公平, 公正, 社会正義
③ 吉野さんがみんなの前で無視したことを謝り「わたしも」という声が挙がる		- 吉野さんの行動は正しいのかな。 - 一緒に謝るのは正義なのかな。	A 善悪の判断, 自立, 自由と責任 C 公平, 公正, 社会正義

4 本校の研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ

「自己を見つめ、他者のよさに気付き、互いに認め励まし高め合う子どもの育成」

(2) 授業の視点

視点イ②交流活動の工夫

ア 自分の意見と友達の意見を比べたり、考えを深めたりする発問をすることで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

イ 日常生活で起こりそうな問題場面について学び合いをすることで、自分事として課題を捉え、多面的・多角的に考えることができるようにする。

視点ア③振り返り

ア 本時の学習を振り返って考えたことやこれから実践してみたいこと、大切にしたい気持ちなどを「振り返りカード」にまとめることで、今後の実践に繋げることができるようになる。振り返ったことを友達と交流したり、発表する時間を設けたりすることで、多様な考えにふれることができる。

5 本時

(1) 本時の目標

いじめは許されないことであることを理解し、公平、公正な態度で接し、正義の実現に努めようとする心情や判断力を養う。

(2) 実際

過程	主な学習活動と予想される児童の反応	時間	指導上の留意点 (①交流活動 ②振り返り) ※評価
意識化	1 道徳的価値に対しての自分の立ち位置を確認する。	2	② 友達が仲間外れにされている場面において、どのような行動をとるのか四象限表に自分の立ち位置を表現させるとともに、アンケートの内容も提示し、本時までには自分の立ち位置を視覚的に捉えることができるようにする。
焦点化	2 本時のめあてをつかむ。 正義とは、何だろう。	3	① 正義とはどのような行動のことを指しているのかを考えさせることで、本時の学習に対しての問題意識を高める。
追及・深化	3 問題場面における正義について学び合う。 (1) 問題場面においてどのような行動をとるのかを確認する。【全体】 ・無視をしようと誘われたときに断る。 ・友達と一緒に声をかける。 ・何もしない。 ・手紙を書く。 (2) 出された行動についてより正義に近いと言えるものは何かを話し合う。 【個人・グループ・全体】 ・無視しようと誘われたときに断る。 ・友だちに注意をする。 (3) よりよい行動やその心情について全体で学び合う。【全体】	2 2	① 場面を焦点化しやすいように事前に教材は読んでおかせ。挿絵を提示して、あらすじを確認させる。 ① 自分だったらどんな行動をとるのか、またその場面においてどのような行動を正義と言えるのかを学び合うことで、自分事として問題を捉えることができるようにさせる。 ① 出された意見を黒板に短冊で掲示し、友達の考えを視覚的に分かりやすくさせる。また、全体で話し合うことでその後の個人の考えをもちやすくさせる。 中心発問 「より正義に近いと言える行動は何だろうか。」 ① グループごとに行動とその理由を全体へ発表させ、それぞれの意見を整理させる。異なる意見が出て認められるようにさせる。 深める発問 「なぜその行動が最も正義に近いのか。」 ① 中心発問で出された意見の中で、最も正義に近い行動を決めさせるために、選択した理由について全体で話し合うことで、行動の意義について確かめさせる。
自覚化	4 正義の実現に大切なことは何かを考える。 正義の実現には、 ・相手の気持ちを考えること。 ・みんなに同じように接すること。 ・学級みんなのことを考えること。 が大切である。 5 今までの自分を見直し、これから大切にしていきたい気持ちを振り返りカードに記入する。 (1) 振り返りカードに書く。 (2) 発表をする。	1 5	価値に迫る発問 「正義の実現に大切な考えや思いは何ですか。」 ① 正義の実現に向けて、よりよい行動をとるために必要な考えをまとめさせる。 ① 自分の考えをまとめることができた児童は、席を離れ、友達の意見と比較することで多面的・多角的に考えることができるようにさせる。その際、同じ考えの時には☆、自分の考えと違う場合には◎を付けさせる。 ② 本時を振り返り、めあてに対する自分の考えやこれから大切にしたい気持ちなどを書かせることで、考えを共有させ、実践への意欲を高められるようにする。 ② 友達の意見を通して感じたことや考えたことを振り返らせる。 ※ 公平、公正に接し、正義の実現に努めようとする心情や判断力を養うことができたか。
意欲化	6 道徳的価値に対しての自分の立ち位置をもう一度明らかにする。 7 教師の説話を聞く。	3	② 学習を通して道徳的価値に対して自分の立ち位置に変化があった児童にはその理由を書かせる。変化がない児童は授業を通して感じたことを考えさせる。 ② 更に意欲を高めるために、自分がからかわれたり冷やかされたりしているときに友達に助けてもらった経験を書いている日記を紹介し、自分が正しいと思うことをする大切さを確認させる。

(3) 板書計画

